

平成 15 年度 病虫害発生予察情報 注意報 第 1 号

病虫害名： チャバネアオカメムシ

対象作物： ナシおよびリンゴ幼果

1. 注意報の内容

- (1) 対象地域 都内全域
- (2) 発 生 量 多

2. 注意報発令の根拠

- (1) チャバネアオカメムシのフェロモントラップへの誘殺開始時期は、過去 4～5 年の調査では 4 月第 4 半旬から第 6 半旬に始まっていたが、本年は第 3 半旬に始まった。
- (2) フェロモントラップへの誘殺数は過去 4～5 年の調査と比べて多い（表 1）。
- (3) 向こう 1 か月の平均気温は平年並か高く、降水量は平年並と予想され、今後も発生に好適な条件が継続すると予想される。

表 1 チャバネアオカメムシフェロモントラップ誘殺数（立川・農業試験場）

↓ 旬 年 →	1998	1999	2000	2001	2002	2003
4 月 3 半旬	0.0	0.0	0.0	-	-	-
4 月 4 半旬	1.0	1.3	0.0	12.3	0.0	1.3
4 月 5 半旬	-	-	-	-	-	3.7
4 月 6 半旬	11.5	4.3	0.3	4.0	0.0	11.0
5 月 1 半旬	7.8	7.8	0.0	8.3	4.3	19.0

3 トラップの平均値

3. 害虫の生態ならびに防除対策

- (1) 成虫は、ウメ、ナシ、リンゴなど果樹の幼果、クワやサクラの実などを吸汁する。吸汁された果樹の幼果は生長するにつれて大きく変形する。
- (2) 6 月下旬頃から新成虫が羽化して秋まで果樹や果菜類・豆類などを吸汁加害する。
- (3) 幼果のうち、有袋栽培の効果が高い。
- (4) 果樹園への飛来が認められたら表 2 を参照して薬剤を散布する。
- (5) 合成ピレスロイド剤は天敵類に対する影響が大きいというえ、ハダニ類の発生を助長するのでなるべく使用を控える。
- (6) 農薬の散布時刻は果樹園への飛来が多い夕刻、または活動の鈍い早朝に行うのが良い。

表 2 主な防除薬剤

薬 剤 名	薬剤の系統	使用回数	希釈倍率	ナ シ	リンゴ
ア - デント水和剤 *	合成ピレスロイド	3	1000	○	
アグロスリン水和剤 *	合成ピレスロイド	3	1000-2000	○	
アディオオン乳剤・フロアブル *	合成ピレスロイド	2	2000	○	
ロディー水和剤 *	合成ピレスロイド	3	1000	○	
Mr. ジョーカー水和剤 *	有機ケイ素	2	2000	○	○
スプラサイド水和剤	有機リン	2	1500	○	○
スミチオン水和剤 40	有機リン	6	800-1000	○	○
スミチオン乳剤	有機リン	6	1000	○	
アドマイヤー水和剤	ネオニコチノイド	2	1000	○	
ベストガード水溶剤	ネオニコチノイド	3	1000	○	
アクタラ顆粒水溶剤	ネオニコチノイド	3	2000	日本梨	
アルバリン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド	2	2000	○	
スタークル顆粒水溶剤	ネオニコチノイド	2	2000	○	
ノンマイト乳剤	IGR・含ピレ	1	1500	○	

* 印は桑園の近くで使用してはなりません。

.....

防除所ホームページ <http://www.jppn.ne.jp/tokyo>

テレホンサービス 042 (525) 8407

今後の予察情報にご注意下さい。

E-mail アドレス S0200303@member.metro.tokyo.jp